

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立藤城小学校

4月22日に、本校6年生47名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や生き方に関わる質問調査も実施されており、その結果の概要等、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

【総合結果（国語・算数）】

国語A・B、算数A・Bの本校平均は、全国平均より上回っていました。特に国語Bや算数Bで自分の考え方を記述する問題において、顕著な結果が見られました。また、無回答率も低く、最後まで問題に取り組もうとする姿勢も見られます。

【国語A・Bより】

全体的によくできています。国語A・Bの多くの問題で、全国や京都府の平均を上回っています。

特に国語Bの「2つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える」問題や「2つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」問題では、正答率は全国（京都府）平均と比較して10ポイント以上高い結果となりました。

それは、日常の授業の中で自分の考えを書いたり話したりする場を設け、交流を図ることによってお互いの考えを深めている成果の表れと考えています。

一方、「詩の解釈における着眼点の違いを捉える」問題では、全国平均を下回る結果となりました。

物事や資料をいくつかの見方で捉えることを日々の学習の中でも意識して取り組むことで力を伸ばしていきたいと考えています。

【算数A・B】

全体的によくできています。算数A・Bの多くの問題で、全国や京都府の平均を上回っています。

特に算数Bの「示された情報を整理・解釈し、小数倍の長さの求め方を記述したり問題にあった図を選択したりする」では、正答率は全国（京都府）平均と比較して10ポイント以上高い結果となりました。

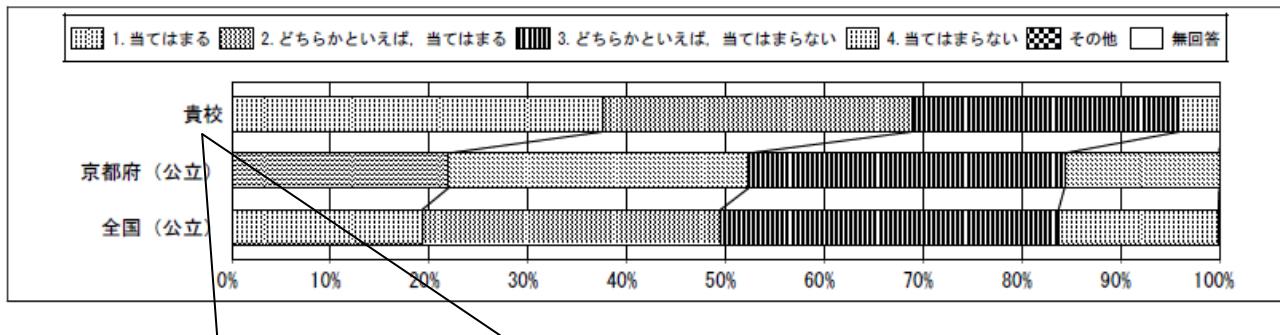
それは、問題文から示された情報を整理し、解決の見通しを立て、それに基づいて筋道を立てて考えることを算数の学習で取り組んできた成果の表れと考えています。

一方、「必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する」問題では、全国平均を下回る結果となりました。

式や答えを求めるだけでなく、なぜそのように考えたのかをノートに書いたり発表したりする経験を多くつんでいくことで、力を伸ばしていきたいと考えています。

児童質問紙調査より①

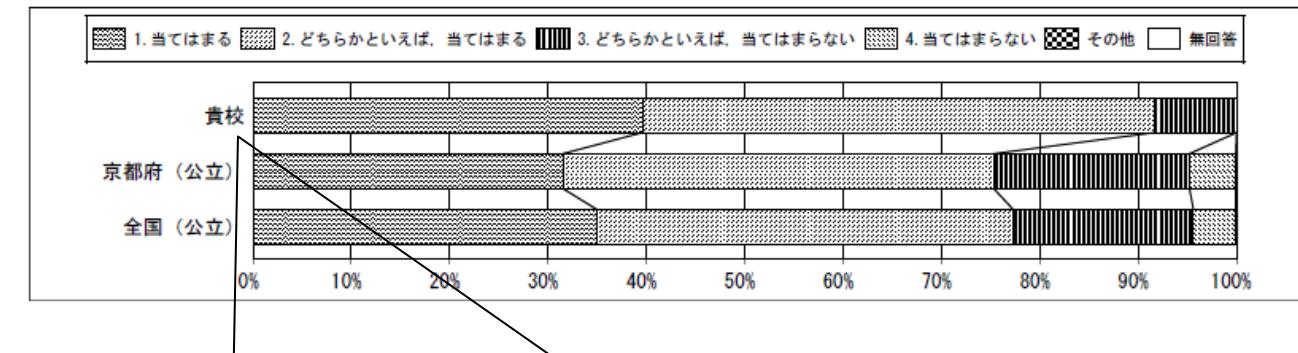
質問番号	質問事項									
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	37.5	31.3	27.1	4.2					0.0	0.0
京都府（公立）	21.9	30.4	32.0	15.7					0.0	0.0
全国（公立）	19.3	30.2	34.2	16.2					0.0	0.0



この質問結果から、進んで自分の考え方や意見を発表できる児童の割合が、全国（京都府）平均よりも高いことが分かります。また、「学校の授業では、自分の考え方を発表する機会が与えられていますか」という質問では、あてはまると回答した児童の割合が高くなっています。日々の授業で数多く発言することが児童の自信につながっていることが読み取れます。

児童質問紙調査より②

質問番号	質問事項									
(41)	5年生までに受けた授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	39.6	52.1	8.3	0.0					0.0	0.0
京都府（公立）	31.5	43.8	19.9	4.7					0.1	0.1
全国（公立）	35.0	42.3	18.3	4.3					0.1	0.0

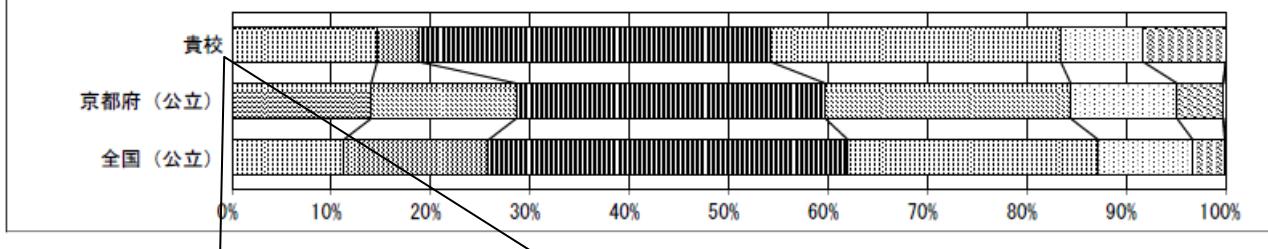


この質問結果から、自分やグループの課題について、適切な方法を使って調べられる児童の割合が全国（京都府）平均よりも高いことが分かります。情報教育に継続的に取り組んできた成果が、インターネットを含めた効果的な情報の収集、そしてまとめ、伝える活動へとつながっていると考えられます。

児童質問紙調査より③

質問番号	質問事項									
(14)	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	14.6	4.2	35.4	29.2	8.3	8.3			0.0	0.0
京都府（公立）	14.0	14.6	31.1	24.7	10.7	4.6			0.1	0.0
全国（公立）	11.2	14.6	36.2	25.2	9.5	3.2			0.1	0.0

■ 1. 3時間以上 ■ 2. 2時間以上、3時間より少ない ■ 3. 1時間以上、2時間より少ない ■ 4. 30分以上、1時間より少ない
 ■ 5. 30分より少ない ■ 6. 全くしない ■ その他 ■ 無回答



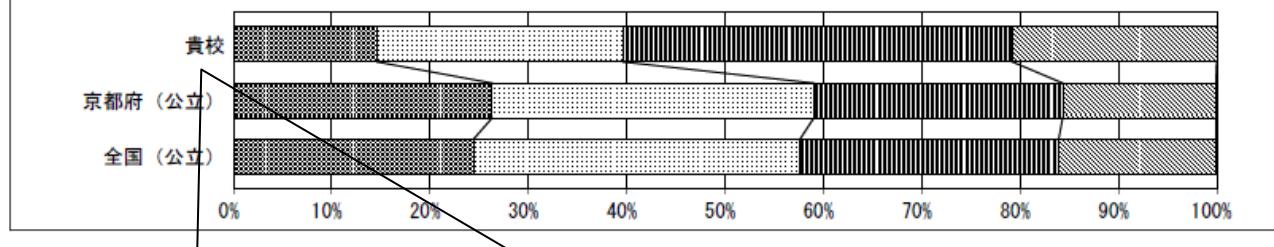
この質問結果から、学年に応じた時間で家庭学習に取り組んでいる児童の割合が全国（京都府）平均よりも多少低いことが分かります。

学校から出る宿題だけでなく、日々の学習で理解が難しかった内容を振り返ったり、興味・関心がある内容で自主学習に取り組んだりといったことを継続的に行っていくことが大切であると考えています。

児童質問紙調査より④

質問番号	質問事項									
(47)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
貴校	14.6	25.0	39.6	20.8					0.0	0.0
京都府（公立）	26.3	32.7	25.3	15.6					0.0	0.1
全国（公立）	24.4	33.2	26.3	16.0					0.1	0.1

■ 1. そう思う ■ 2. どちらかといえば、そう思う ■ 3. どちらかといえば、そう思わない ■ 4. そう思わない ■ その他 ■ 無回答



この質問結果から、自分の考え方を説明したり文章に書き表したりすることを苦手と感じている児童の割合が全国（京都府）平均よりも高いことが分かります。また、「400字詰め原稿用紙2～3枚の説明文や感想文を書くこと」も合わせて苦手に感じているようです。

各教科でのノート指導を充実させるとともに、100マス作文など文章を書く機会を多くもつことで、書くことに対する苦手意識もなくしていくことが大切と考えています。

【全体を通した本校の成果と課題】

本校では、「思いやりのこころをもって、生き生きと活動する子」を学校教育目標とし、研究主題である「情報活用能力を基にした、生きる力の育成」を目指して、保護者や地域の皆様の協力を得ながら、教職員一丸となって取組を進めています。

各教科においては、情報活用能力の実践力を身につけ、コミュニケーション力の育成を図りながら、児童に「思考力」「判断力」「表現力」を育むことができるよう指導にあたっております。

「自分で課題を設定することにはじまり、「課題に応じて必要なことを学んだり情報を集めたりする」「集めた情報を分かりやすくまとめる」「効果的な方法を選択し、相手を意識して分かりやすく伝える」などの情報活用能力を身につけること、また、子ども同士が交流する中で、お互いの考え方や思いを比べたり広げたり深めたりすることが、思考・判断・表現力を育み、「生きる力」を身につけることにつながると考えています。

【保護者の皆様へ】

全国学力・学習状況調査は子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を争うものではありません。

学食は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。

今後も子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。